

平成26年度
No. 4
12月2日

全連小速報

全国連合小学校長会事務局
東京都港区西新橋1-22-14
電話 03-3501-9288
発行人 会長 堀竹 充
編集人 広報部長 大橋 明

「生きる力と絆」に重きをおいた教育 — 自立、協働、創造、社会貢献 —

第66回全連小研究協議会埼玉大会成功裡に終わる

平成26年10月23日(木)～24日(金) 大宮ソニックシティ及び周辺会場

豊かな自然、産業、文化に恵まれた「彩の国埼玉」。首都東京に隣接し、大きな発展を遂げてきている、若い世代が多く活力のある埼玉県において、10月23日(木)・24日(金)の2日間、第66回全国連合小学校長会研究協議会が全国から約3000名の参加者を得て、盛大に開催された。

本大会は、新たな研究主題を掲げた研究大会の2年目となる。1日目は、開会式・全体会の後、13の分科会に分かれて活発な協議が行われた。2日目には「未来をつくる誇り高き子どもたち」を主題としたシンポジウムが、堀尾正明氏・山田香織氏・林家たい平氏をシンポジストに迎え、小泉与吉調査研究部長の進行で行われた。

閉会式では「旅立ちの日に」を合唱し、感動のうちに大会の幕を閉じた。

大会主題

新しい知を拓き 人間性豊かな社会を築く

日本人の育成を目指す小学校教育の推進

～共に生きる知恵を磨き 心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成～

開会式

- 1 開会のことば 加藤誠雄 大会副会長
- 2 国歌斉唱
- 3 あいさつ 堀竹 充 大会会長
高瀬 浩 大会実行委員長
- 4 祝辞 文部科学大臣 下村博文様
(代読 文部科学審議官 前川喜平様)
埼玉県知事 上田清司様
さいたま市長 清水勇人様
(代読 さいたま市副市長 本間和義様)
埼玉県教育委員会教育長 関根郁夫様
- 5 来賓紹介
- 6 閉式

世界で活躍する人材を育成する

堀竹 充 大会会長

第66回全国連合小学校長会研究協議会埼玉大会が歴史と文化に彩られた埼玉の地を会場に開催できることを心からお喜び申し上げる。

文部科学審議官前川喜平様、埼玉県知事上田清司様、さいたま市長清水勇人様、埼玉県教育委員会教育長関根郁夫様、さいたま市教育委員会教育長稲葉康久様をはじめ多くのご来賓の皆様のご臨席を賜り盛大に開催できることに心よりお礼申し上げます。

昨年度ははじめや教員等による体罰が問題となり校長による子どもの健全な成長を保障する学校づくりや未然防堵のための体制づくり、教



員の意識改革等が大きな問題となった。学校は子どもが安心安全な環境の中で個性を育み、能力を高め、成長の可能性を広げる良質な教育環境を提供しなくてはならない。校長はこれらの使命を自覚し、信頼の確立を図ることが重要である。そのために信念と自覚をもって経営方針の策定と実施に取り組み、組織の活用や教員の指導力向上に向けた施策の立案に積極的にリーダーシップを発揮することが求められている。道筋の明示が学校、教職員を変えることに繋がる。使命を自覚し保護者や地域の信頼を確立することに全力を傾けなくてはならない。

教育改革の動きはそのスピードを増し、新たな日本の教育の姿が明らかになろうとしている。校長は自ら情報収集力や分析力を磨き、これからの学校教育に求められていることを明確に理解する必要がある。教職員に学校教育のあるべき姿を正しく伝え、先の見通しをもたせて一体となって改革に取り組ませていくことが校長のあるべき姿である。

世界を舞台に活躍できる人材に求められている資質や能力を明らかにし、社会参画に積極的に取り組む人材を育成するための在り方について今後の研究や調査活動で明らかにしていく必要がある。

新たな研究主題に基づく実践の交流と議論の場の充実がより一層求められる。埼玉県校長会が「共に生きる知恵を磨き 心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成」を副主題に一丸となって真摯に研究を進めてきたことは意義深いことである。研究の成果が全国の小学校の教育活動の充実に大きく貢献すると確信している。

会場内の皆様の大会への強い期待とこれからの教育をつくっていくという熱い気持ちを分科会での活発な議論に結びつけ、その成果を各都道府県に持ち帰り、それぞれの地区での学校経営の充実、一人一人の校長の経営力の向上に役立てていただきたい。

大会の運営を推進してきた高瀬浩大会実行委

員長をはじめとする役員の皆様、埼玉県小学校長会の皆様、関東甲信越地区小学校長会連絡協議会の皆様、関係の皆様深く感謝を申し上げます。

時代の要請に的確に応えていく

高瀬 浩 大会実行委員長

この度、「彩の国埼玉」において、第66回全連小埼玉大会を開催できたことは大きな誇りである。第66回関東甲信越地区小学校長研究協議会、第53回埼玉県公立小学校校長研究協議会を兼ねての開催である。

埼玉大会開催に向けて4年の歳月をかけて準備してきた。郷土の偉人、渋沢栄一が唱えた「忠恕の心」、これは真心と思いやりであるが、埼玉県としておもてなしの心をもって皆様をお迎えしたい。2日間の日程の中で「忠恕の心」を実現していきたい。

知識基盤社会の新たな進展やグローバル化、少子高齢化の進行で激しい社会変動が予想される時代となっている。一人一人が生涯にわたって絶えず知を更新し、自立、協働、創造の力を養い、その成果を社会に生かしていくことが必要となっている。

本大会では、大会主題「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す 小学校教育の推進」を三重大会より引き継ぎ、「共に生きる知恵を磨き 心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成」を副主題として実践してきた。「自立、協働、創造、社会貢献」がキーワードである。

大会主題や副主題、キーワードを実現する場の一番目は分科会である。5つの研究領域13の分科会の中で校長の果たすべき役割と指導性が明確になるよう具体的な事例を基にした協議をしていただきたい。分科会の充実が埼玉のおもてなしであると考えている。二番目はシンポジウムである。シンポジストとして3名の方をお迎えし、大いに語り合っていたきたいと考えている。多くを学び、それを各学校におもち帰りいただきたい。

本大会の開催に当たり、文部科学省、埼玉県、さいたま市並びに各教育委員会の皆様、全連小並びに関東甲信越地区連合小学校長会をはじめ、関係機関・団体の皆様のご理解とご協力に感謝申し上げます。本大会が未来をつくる誇り高き子どもたちの育成に向けて大きく成果を挙げることを祈念し、歓迎の言葉とする。

下村文部科学大臣祝辞代読（要旨）

文部科学審議官 前川喜平様

第66回全国連合小学校長会研究協議会埼玉大会が盛大に開催されますことを心よりお祝い申し上げます。

第2次安倍内閣は教育再生を最重要課題の一つとして取り上げ取り組んでいる。日本の将来を担う子どもたちは国の一番の宝であり、教育は国の根幹をつくる国の最重要施策である。

昨年12月に発表されたOECDの学習到達度調査の結果では、読解力、科学的リテラシーの分野でOECD諸国の中でトップとなり、数学的リテラシーでも2位になるほど過去最高の結果となった。今年の全国学力・学習状況調査の結果から、全国的に学力の底上げが進んでいることが明らかとなった。このような状況から我が国の学校教育は関係者の尽力により世界に誇るべきものとなっている。一方、学習意欲の面が引き続き課題となっている。自ら課題解決に向かい未来を切り拓く子どもたちの育成に向けて学力水準の一層の向上と豊かな人間性の涵養に取り組むことが大切である。

教育基本法の理念に基づき、第2期教育振興基本計画の着実な実施に努めるとともに、教育再生実行会議の提言を踏まえ、様々な観点から教育再生に取り組んでいる。大きな社会問題になっているいじめ問題については、いじめ防止対策推進法や基本方針を基に総合的な対策を推進していく。また、よりよく生きる力の育成に向けて、道徳教育の抜本的な改善・充実に取り組んでいる。教育課程の改善に関しては中央教育審議会からの答申を踏まえ、学習指導要領の改訂に取り組んでいく。道徳の教材は「私たちの道徳」を全国の小中学生に配布しており、家庭や地域と連携を図った積極的な効果的な活用をお願いしたい。

さらに、土曜日の豊かな教育環境実現に向けて、学校における土曜授業や地域における多様な学習機会の充実を図るため、土曜日の教育活動推進プランを実施している。

小学校の現行学習指導要領が全面実施されて本年で4年目となる。現行学習指導要領は知徳体のバランスのとれた生きる力を育むことを目指している。

子どもたちが高い志をもって成長し、社会の中心となって活躍することができるよう、学校・家庭・地域が一体となった取組を進めてい

く必要がある。その取組の中心として学校には大きな役割が期待されている。一層の尽力をお願いしたい。

今大会が所期の目的を達成するとともに、全連小の益々のご発展を祈念し、お祝いの言葉とする。

埼玉県知事祝辞（要旨）

埼玉県知事 上田清司様

真摯な会場の雰囲気を体で感じている。がんばっている校長先生方に御礼申し上げます。

安倍内閣で3本の矢が実行され成果が上がっているが、成長戦略は先行きが見えない。経済を成長させる最も早道は世界トップレベルの学力を身に付けることである。世界トップレベルの学力があればGDPを6%引き上げることができる、学問の力が経済を支えていくという話があり、私もそのように思う。

人材こそ日本の資源である。人材をどう育てていくのかを今後考えていく必要がある。

憲法に16の権利、10の自由、3の義務の条文がある。3つしかない義務の内、教育を受けさせる義務は大変重要である。困難な時代に現場で一生懸命やっている校長先生方のリーダーシップに敬意を表する。

本大会の盛会、成果を大いに期待し、歓迎の意を表したい。

清水さいたま市長祝辞代読（要旨）

さいたま市副市長 本間和義様

さいたま市は誕生から14年、政令指定都市となってから12年が経過する。これからの100年を見据えた活力ある街づくりを進める観点から市民一人一人が幸せを実感できる都市の実現を目指している。

教育では、学校・地域・家庭・行政の強い結び付きにより地域全体で取り組むなど、未来を担う子どもが心身共に健やかに育ち自立するよう日本一の教育都市の実現を目指して取り組んでいる。

さいたま市は中山道の宿場町として発達してきた。東日本の交通の要所である。鉄道博物館や盆栽美術館などもある。さいたま市の魅力の発信に取り組んでいる。埼玉の魅力にも触れて欲しい。

本大会開催に当たりご尽力いただいた関係者の皆様に心から感謝申し上げます。

埼玉県教育委員会祝辞（要旨）

埼玉県教育委員会教育長 関根郁夫様

来年4月より新しい教育委員会制度が始まるなど様々な教育改革が進められている。

埼玉県では学校教育の充実、日本人教育の推進など施策ごとの重点的な取組を示した「埼玉県教育行政重要施策」を定め取り組んでいるところである。その中でも確かな学力を付ける、グローバル化に対応した人材の育成などを最重要課題と位置付けている。

本年度から2期目の教育振興基本計画「生きる力と絆の埼玉教育プラン」を策定し、次代を担う子どもたちが知徳体の基盤の上に生きる力を伸ばそうとしている。小中9年間の学びや育ちの連続性を重視した取組や学校・家庭・地域が一体となった教育の推進に取り組んでいる。この中で校長先生の果たす役割が大変重要になっている。校長としての明確なビジョンを示し、学校の課題解決に向けて積極的に学校経営を行ってほしい。また、各学校で積み上げてきたよさの確認もしていくことが必要である。

本大会主題に沿って、熱心に研究協議が進められることは大変重要であり、成果に期待している。

文部科学省講話（要旨）

文部科学審議官 前川喜平様

文部科学省の施策について説明を申し上げる。これまでに、教育再生実行会議では「いじめの問題等への対応について」「教育委員会制度等の在り方について」「これからの大学教育等の在り方について」「高等学校教育と大学教育との接続・大学入学者選抜の在り方について」「今後の学制等の在り方について」の5つの提言をしている。さらに、3つの分科会別で議論を行っている。第1分科会が「これからの時代に求められる能力を飛躍的に高めるための教育の革新」、第2分科会が「生涯現役・全員参加型社会の実現や地方創生のための教育の在り方」、第3分科会が「教育立国実現のための教育財源など教育行財政の在り方」である。

道徳教育について中央教育審議会の答申では、道徳を特別の教科と位置付けている。これは検定教科書を使って道徳の授業を行うことになる。道徳教育改訂については、全体の学習指導要領の改訂に先行して行われる予定である。

英語教育について英語教育改革実施計画では、小学校3年生から外国語活動を始め、5年生から教科として週3コマの英語教育を行う計画である。平成30年度から段階的に先行実施し、平

成32年度に全面实施するとのことである。教科としての英語を行うには、英語の免許状をもった教師が必要になるため、専科教員の配置等が今後の課題である。

これからの学校教育を担う教職員やチームとしての学校の在り方については、教員とは異なる専門性や経験を有する専門的スタッフを学校に配置し、教員と連携して専門性を発揮し、学校組織全体が、一つのチームとして力を発揮することをねらいとしている。

新たな教職員配置については、我が国の教員1人当たりの児童・生徒数は、OECD平均より依然として多く、これを平均並みにしたいと考える。ただし、これまでのように35人学級を目指すのではなく、教育の質を改善するためであり、活用方法は各教育委員会に任せたい。

学校規模の適正化については、学校が小規模化することで生じる課題を、何らかの方法で克服していきたい。その一つの方法として、複式学級の編制基準の見直しがある。また、可能であれば統合するという方法も効果的な選択肢であり、各市町村が主体的に統合することを、文部科学省は支援していきたい。

いじめの問題については、各学校に基本方針の策定や組織の設置を義務付けている。いじめが起こりにくい学校づくりとともに、重篤な事態が生じた際には、学校と教育委員会の責任において調査を行い、調査結果に不備がある場合には、首長の指示により再調査するなど、自治体全体で取り組むことが求められている。

不登校については、教育再生実行会議の第5次提言でフリースクールについて重要なことを提言している。フリースクール等の位置付けについて、就学義務や公費負担の在り方を含め検討するというものである。

土曜授業については、学校教育法施行規則を改正し、設置者の判断により、土曜授業を行うことが可能であることをより明確化した。ただし、教職員の勤務時間が決まっているため制約がある。

特別支援教育については、インクルーシブ教育システム構築ということで、一般の小中学校で障害のある児童生徒を、極力受け入れる方向で進めている。様々な対応が生じるため、定数改善が必要と考える。

小中一貫教育については、中央教育審議会の答申を受け、これまで自治体が進めてきた小中一貫教育を後押しするため、学校教育法に新たな種類の学校を設ける改正案を来年の通常国会に提案する予定である。そのためには、小中学校の先生方が交流できるように、教員免許制度の工夫が必要であると考えられる。

第1日 全体会

司会 角田 守 大会実行副委員長

- 1 本部報告
- 2 大会主題・研究課題趣旨説明
- 3 大会宣言に関する提案

本部報告（要旨）

高橋俊明 対策部長

教育再生実行会議から5次にわたる提言が出されるなど、新たな時代の要請に応えるための学校教育の充実を図る改革が進められている。全連小は、このような状況を踏まえつつ、教員の子どもと向き合う時間の確保、質の高い教育の推進のための施策について、国に対して積極的に働きかけを行っていききたい。今後も各都道府県校長会、地区校長会との連携を一層深め、全連小としての組織・機能の充実を図るとともに、関係機関との連携を密にし、本会としての方針や活動内容、その成果を発信し、積極的な提言を行っていく。

本年度の主な本部の活動について報告する。

5月22日、第217回理事会が開催され、会長、副会長、常任理事の互選、及び監事の選出を行った。

5月23日、第66回総会・研修会が行われ、1～5号議案すべて承認された。

7月10日には、常任理事による要望活動を行い、文部科学省・財務省・総務省の大臣・副大臣・政務官・省内各課長を訪問し、要望書を提出した。

7月26日～8月1日までの7日間、20名の参加者により、ニュージーランド海外教育事情視察を行った。現地の学校とクライストチャーチ教育省を訪問した。



また、3地区対策・調研担当者連絡協議会が、9月25日、10月2日、3日に東京、大阪、福岡の会場で開催された。

今後とも、全国の小学校の教育活動充実のため、協力をお願いする。

大会主題・研究課題趣旨説明

大谷一義 埼玉大会研究部長

大会主題は、昨年度三重大会から2年目となる「新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く日本人の育成を目指す小学校教育の推進」である。三重大会の成果を受け継ぐとともに、大会主題の理念を推し進めることを目指し、副主題を「共に生きる知恵を磨き 心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成」と設定し、大会キーワードを「自立、協働、創造、社会貢献」とし取組を進めてきた。

魅力的で質の高い教育活動は、子どもたちに、共に生き、知恵を磨き合い、高め合うことの喜びと自信を生む。その基盤の上に、心を結び、誇りをもって、よりよい未来社会を創造しようとする確かな意志と力を育みたい。

研究領域については、三重大会と同様5領域とした。13の分科会の研究課題や視点については、三重大会の成果と課題を引き継ぎ、新たな制度改革などの潮流にも注視しながら検討し、継続性と連続性の視点から、内容の明確化、重点化を図り、研究が一層具体的で実践的なものになるようにした。

分科会をより充実させるため、発表内容の十分な理解や活発な意見交換ができるように、大会要録の事前送付やワークショップ型グループ協議を取り入れるなどの工夫をした。

全国各地の提言や活発な討議が、彩の国埼玉にふさわしい彩りとなり、知恵を磨き、心結ぶ未来社会をつくるための方向性を見定めた確実な一歩になるように願っている。

<分科会の研究課題及び研究の視点>

I 学校経営

第1分科会「経営ビジョン」

研究課題：明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進

視点1：子どもの未来を見据えた明確な学校経営ビジョンの策定

視点2：明確なビジョンに基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進

第2分科会「組織・運営」

研究課題：学校経営ビジョンの実現を図る活力ある組織づくりと運営

視点1：学校経営ビジョンの実現に向けた運営組織構築の刷新

視点2：誇り高き子どもを育むための活力ある運営

第3分科会「評価・改善」

研究課題：学校教育の充実を図る評価・改善の推進

視点1：「新たな知を拓く」教育を実現するための学校経営の推進

視点2：学校づくり・人づくりを推進するための学校評価・教職員人事評価の工夫

II 教育課程

第4分科会「知性・創造性」

研究課題：知性・創造性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

視点1：これからの社会を生き抜くための学力を育む

視点2：共に生きる知恵を磨き、高め合う教育活動の創造・推進

第5分科会「豊かな人間性」

研究課題：豊かな人間性を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

視点1：豊かな心を育む道德教育の推進

視点2：心結ぶ未来社会をつくる人権教育の推進

第6分科会「健やかな体」

研究課題：健やかな体を育む教育課程の編成・実施・評価・改善

視点1：たくましく生きるための体力を育む教育活動の創造

視点2：主体的、実践的な能力や態度を育む健康教育の推進

III 指導・育成

第7分科会「研究・研修」

研究課題：学校の教育力を向上させる研究・研修の推進

視点1：教員の資質能力を高める校内研究・研修の推進

視点2：教職員に展望や参画意識をもたせる研修の推進

第8分科会「リーダー育成」

研究課題：これからの学校を担うリーダーの育

成

視点1：確かな展望をもち行動できるミドルリーダーの育成

視点2：変化の時代を生きる人間性豊かな管理職人材の育成

IV 危機管理

第9分科会「学校安全」

研究課題：命を守る安全・防災教育の推進

視点1：自ら考え、判断し、行動できる子どもを育む安全・防災教育の推進

視点2：地域との連携を図った意図的・計画的な学校安全・防災の推進

第10分科会「危機対応」

研究課題：様々な危機への対応

視点1：いじめや不登校等への適切な対応

視点2：高い危機管理能力をもつ組織育成のための意図的・計画的な取組の推進

V 教育課題

第11分科会「社会形成能力」

研究課題：社会形成能力を育む教育の推進

視点1：社会に貢献する資質能力・態度の育成を目指す教育活動の創造

視点2：豊かな未来の実現に貢献する力を育むキャリア教育の推進

第12分科会「自立と共生」

研究課題：自立と共生を図り実践的態度を育む教育の推進

視点1：子どもの自立を図る特別支援教育の推進

視点2：心結ぶ未来社会の実現に向けた実践的態度を育む環境教育等の推進

第13分科会「連携・接続」

研究課題：家庭・地域等との連携と異校種間の接続の推進

視点1：家庭・地域等と連携した開かれた学校づくりの推進

視点2：異校種間の学びの連続性を重視した取組の推進



第2日 全体会

司会 鹿川 豊 大会実行副委員長

1 研究協議のまとめ

2 大会宣言文決議

高野和夫 大会宣言文起草委員長

◇ シンポジウム

研究協議のまとめ

大谷一義 埼玉大会研究部長

昨日の13の分科会では、熱心に協議をしていただいた。貴重な発表をいただいた発表者の皆様、司会・記録等運営に携わった皆様、分科会の趣旨に沿って協議いただいた皆様に感謝を申し上げます。研究協議のまとめは、次の3点である。

1 大会副主題・分科会協議について

副主題「共に生きる知恵を磨き 心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成」と大会キーワード「自立、協働、創造、社会貢献」については次のとおりである。「共に生きる知恵を磨き」に関しては、特に第4分科会「知性・創造」で解明していただいた。「自立」「協働」については、第6分科会「健やかな体」や第9分科会「学校安全」、第12分科会「自立と共生」でまとめていただいた。「心結ぶ未来社会をつくる」ことに関しては、その態度形成について、特に第5分科会「豊かな人間性」や第11分科会「社会形成能力」、第13分科会「連携・接続」で解明していただいた。

各分科会では、各視点からの「校長の果たすべき役割と指導性」についても明らかにした。第1領域「学校経営」では、実践例を通して経営の在り方を、第3領域「指導・育成」では、将来的な人材育成策についてまとめていただいた。これらの経営実践、教育活動により心を結び、誇りをもって、よりよい未来社会を創造しようとする確かな意志と力を育むことができるものと確信した。

2 分科会充実のための運営について

分科会充実のための工夫については次の3点である。1番目の「発表内容の理解と協議の充実のための工夫」については、大会集録の事前配布により、発表内容を十分理解していただき、各分科会で本質的な協議が熱心に行われたことで、確かな成果を得ることができたと考える。2番目の「グループ協議、運営方法の工夫」については、ワークシートや付箋を用いたワークショップ型のグループ協議により、積極的な発言や意見交換が行われ、協議内容の整理や関連を構造的に表すことに効果があったと考える。3番目の「研究の継続」については、趣旨説明で三重大会の成果と課題を明らかにすることで、それらを意識した協議が見られた。

3 今後の発表・研究の進め方について

本大会の発表や協議を通して明らかになった課題は次の3点である。1点目は、「研究から実践へ」である。校長は、確かな教育理念、経営理念をもたなければならないが、自校のために、より実践的、具体的であることが大切である。他校の参考となるような、具体的な提言が望まれる。2点目は、「校長会が先駆的な担い手に」である。学校が地域防災の担い手となるよう、行政施策や地域改善に先駆ける校長会の研究が望まれる。3点目は、「継続と発展」である。三重大会から埼玉に、そして山口大会に研究を継続させ発展させるように、本大会の成果と課題を経験の浅い校長や地域の校長に伝え、発展させなければならないと考える。

埼玉大会の成果を、各都道府県に広めていただき、各学校での学校経営に生かしていただければ有り難い。本大会の成果が、子どもたちが共に生き、知恵を磨き合い、互いに心を結ぶ未来社会をつくる誇り高き子どもたちの育成につながることを願う。また、本大会の成果と課題が大会主題3年目となる来年の山口大会に引き継がれ、より一層の成果が得られることを祈念して、埼玉大会の研究協議のまとめとする。

大会宣言

全国連合小学校長会は、結成以来、我が国の小学校教育の充実・発展のため、真摯に研究と実践を重ね、着実にその成果をあげてきた。

昨年度開催の第65回三重大会から大会主題を「新しい知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成を目指す小学校教育の推進」として実践的に研究を進めた。本大会に向けて、三重大会の研究成果を引き継ぎ、大会主題の理念をさらに深化・充実・発展すべく組織をあげて鋭意努力して取り組んできた。

現在、知識基盤社会の進展やグローバル化の進行により、社会が激しく変化している。そのような中、我が国では、国民一人一人が幸せを実感できる生活を享受でき、将来世代にも継承できる持続可能な社会の構築が求められている。教育においては、これからの教育の在り方を定めた第二期教育振興基本計画が推進されるとともに、教育再生実行会議の数次にわたる提言及び中央教育審議会の答申等に基づく、国の教育改革が具体的に進められている。

このような国の動向を注視しつつ、東日本大震災の教訓を生かし、「生きる力」を支える知・徳・体の調和のとれた子どもを育成することが学校教育の責務である。また、グローバル化した世界をリードできる人材として、高い知性や国際社会から尊敬される品格をそなえた「忠恕の心、支え合いの心」を大切にした人間性を育てることが求められている。そのためには、これからの社会を生きる子どもたちに求められる「自立、協働、創造、社会貢献」等を基に、知恵を磨き合い、高め合い、心を結び、誇りをもって、未来社会を創造しようとする確かな意思と力を育むことが重要である。

私たち校長は、埼玉大会における副主題「共に生きる知恵を磨き 心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成」を基盤に据え、小学校教育の推進に全力を傾注し、国民の信託に応えようとするものである。

ここに、第66回全国連合小学校長会研究協議会埼玉大会の総意に基づき、次の決意を表明し、その実現を期する。

記

- 一、新たな知を拓き 人間性豊かな社会を築く 日本人の育成
- 一、共に生きる知恵を磨き 心結ぶ未来社会をつくる 誇り高き子どもの育成
- 一、確固たる教育理念に基づく創意と活力に満ちた学校経営の推進
- 一、「生きる力」を育てる創意工夫ある教育課程の編成・実施・評価・改善
- 一、道徳教育を中核に据え命の尊厳を重視した心の教育の一層の充実
- 一、主体的に判断し行動できる子どもを育成する防災教育の推進
- 一、学校の自主性・自律性の確立と家庭・地域社会との連携・協働による教育活動の充実
- 一、安全で安心できる教育環境づくりの一層の推進
- 一、校長自らの研鑽と教職員の資質能力の向上を図る現職教育の充実

右、宣言する。

平成26年10月24日

第66回全国連合小学校長会研究協議会埼玉大会

シンポジウム

『未来をつくる誇り高き子どもたち』

(要旨)

シンポジスト

キャスター

元日本体育大学客員教授 堀尾正明氏

盆栽家 盆栽「清香園」五代目

彩花流盆栽家元 彩花盆栽教室主宰

山田香織氏

落語家

武蔵野美術大学客員教授 林家たい平氏

コーディネーター

全連小調査研究部長

小泉与吉



小泉 シンポジウムの流れとして、始めにテーマ「未来をつくる誇り高き子どもたち」をもとに「これからの教育の在り方、進む方向性」について四つのキーワードで話を進めたい。「夢を叶える過程」「夢の実現に向けた人との関わり」「新たな価値を創り出す（協働）」そして、最後に「子どもたち、校長への期待」についてお話を伺いたい。

堀尾 私は岡山で生まれ、父の仕事の関係で山形、愛知、高崎、横浜など全国各地を転校した。小学校6年生の1学期に埼玉県に転校した。担任の先生は、学校の成績順に子どもを並ばせていた。ある時、算数の成績で順番が前になると、先生が友達に「お前たちは、転校生に負けた」と言った。その時、「自分はまだ転校生なんだ」と傷付いた思い出がある。大学には1年浪人して入り、在学中は文学座でも活動した。2年留年し6年在学したので、就職時に大学推薦をもらえなかった。第一志望のディレクターは大学推薦が必要だった。アナウンサーからディレクターへの変更も在り得ると聞き、推薦不要のNHKのアナウンサー試験を受け、奇跡的に受かりNHKに入った。

山田 本日、ここに置かせていただいた五葉松は、樹齢150年である。この鉢の中で命を保ちながら人から人の手、関わりがないと生きていけない植物である。私は小学1年生の長男と2歳の二男の母親であり、校長先生方を頼りにしている。清香園は、江戸の嘉永の頃からで父が四代目で、私は跡取りの一人娘として生まれた。



女の子の憧れる職業ではなく、12歳頃から跡を継ぐと決める21歳まで悩んだ。転機は、18歳の時、両親と行った10日間のフランス旅行だった。

色の使い方、料理、水、空気、花のアレンジに驚くとともに、違和感を覚えた。その時、ここ

は慣れ親しんだ空気ではなく、盆栽は日本文化の一つで、私はこの中で育った人間だと感じた。大学に入りマーケティングを学び、盆栽の楽しさを伝えるナビゲーターになろうと考えた。

林家 私は秩父市で生まれ、両親はテラーを営み、忙しかった。私は近所の方が育ててくれたようなものだ。中学時代、金八先生のように生徒と汗と涙を流す先生になりたいと思い、担任の先生に相談した。勉強し高校、大学に進めば、教師になれると教えられた。その時に、「夢を叶えるために勉強をする」という意味が分かった。美術教師を目指し1年浪人し、武蔵野美術大学に入った。夜、アパートで絵を描いていたとき、ラジオで偶然落語を聞いて笑った後、温かい血が自分に流れるのを感じ落語という絵の具に出会った気がした。人を元気にさせることは落語もデザインも同じで、その時その時を一生懸命にやっている、神様が導いてくれる。



山田 大学でマーケティングのゼミに入り、ゼミの先生に悩みを打ち明けたとき、悩みをポジティブに転換できる人になる大切さを教えられた。有名な会社の商品でも、膨大な予算と人を使いPRしている。盆栽は果たしてどうかと考えた。日本の伝統産業はプライドがあり、それが裾野を広げることの障害になっていると感じた。先生の一言で、自分の狭い考えでなく発信していくことに自分の存在価値があると考え、盆栽の初心者教室を開いた。これがご縁で、出版、NHKの趣味の園芸等で、瞬時的確な判断をするプロフェッショナルの方々にも出会うことができた。盆栽は長生きで、人生を俯瞰し、私を叱咤激励し、自分の未熟さも教えてくれる先輩である。今後も自分を磨いていきたい。

林家 私は、学校の先生にとっては扱いづらい生徒だったが、見事に対応してくれた先生がいた。中学では英語の先生が、洋楽が好きなら歌詞をみんなに紹介し歌うことを勧めてくれた。そのうち辞書を引き始め英語が好きになっ

た。高校のときは、ひたすら天気図を読み上げる地学の先生がいて、今天気図を見ると思い出す。授業の初めに数学とは関係ない津軽の方言詩集を読んでくれた先生もいた。嘶家になり青森の本屋で、何気なく本を開いたらその詩集に出会った。何十年か経ち、また出会いをくれる先生に幸せを感じる。美術に導いてくれた先生は、小さい事に感動する心を養っておくと、人に感動を伝えることができると教えてくれた。今、落語家になって、感動しながら生きている。

堀尾 ディレクターになりたくてNHKに入ったが、アナウンサーという仕事が面白くなった。日本という国は、「読み書き」が中心で「話す」ということが少ないと感じている。ニュース原稿も書き言葉であり、私たちは書き言葉の中で育てられてきた。日本語のスピーチという勉強は、私の時代には無かったと思う。NHK時代は、服のセンス等でもクレームをいただき、これもコミュニケーションの第一歩と感じた。また、ニュースを読むアナウンサーは、悲しい、嬉しいで表情を変えないなど、事実を伝える大切さを教えられた。

林家 大学3年の時、ラジオで落語に出会い人生が豊かになった。私には、気持ちかもやもやした時、これを無くす落語という引き出しがある。子どもも同様に、落語に接し、元気ももらって、明日学校へ行こうという気持ちになるといい。私は今、子どもたちの近くに、落語に出会うきっかけをつくらうとしている。今は、情報、映像が押し寄せていて想像する機会が少ない。子どもたちには、想像力を働かせ、落語を楽しんでほしい。

堀尾 今は、スマホやインターネットなど情報が多く孤独となる装置が溢れている。小学校時代には、対人で話をする楽しさを味わわせたい。特に、10代の教育が大切であると思つづく思う。若い人が恋愛をしない、傷付きたくない傾向もある。人口減、少子高齢化もあり、このままだと国が成り立たなくなる。子どもたちにとって、人と人が接することが楽しいという世界を構築することが大切である。そのためには、学校と地域がサポートできる体制が大切である。オレ

オレ詐欺の横行は、コミュニケーション力が落ちていることと関係があると思う。

山田 伝統的盆栽の姿は、一昔前の話である。盆栽は、お年寄りの趣味というイメージが強い。若年層、女性も楽しめる盆栽を提案することが私の使命である。彩華盆栽、新しい鉢による取組等により、延べ2,000人の生徒がいて、9割が女性である。新しい一つのブランド名を提案することで、客層も変わる。小学校時代に熱中できたことは、成長した時に大きな支えになることを子どもたちに教えたい。

堀尾 小学校3年、横浜の時の先生は「今、思っていることを1分ずつ教室の前で話してみろ」と言い、みんな思い思いに話した風景が印象深く残っている。フリートークで自分の意思を伝えるノウハウの授業は大切である。日本の東京オリンピック招致のプレゼンテーションは、ニューマン氏が1年間鍛えてできたものである。「話し言葉」の魅力を学校で是非教えていただきたい。

山田 小学校で盆栽を教え9年目を迎える。一生懸命に盆栽をつくると、90分の授業でトイレに立つ子どもは一人もいない。本当にやりたいことが見付かると、簡単に諦める社会人にはならない。頭が素直で純粋な小学校時代に、いろいろな人が学校に来て体験させることが大切である。広い世の中、様々な人を知ることで、子どもたちの視野が広がる。自由度が高い総合的な学習の時間は素晴らしいと考えている。

林家 子どもたちには、多様な仕事をしている大人に出会ってほしい。人はすべて出会いによる。師匠は選べるけれど、兄弟子は選べない。がっかりするのではなく、自分の状況を考え学ぶ機会にしたい。校長先生方には、子どもたちに出会いをつくっていただきたい。

閉 会 式

- | | | |
|---|--------|---|
| 1 | 開 式 | |
| 2 | あいさつ | 堀竹 充 大会会長
高瀬 浩 大会実行委員長
山本晃久 次期開催県代表 |
| 3 | 閉会のことば | 石丸真平 大会副会長 |

第218回 理 事 会

10月22日（水）午後1時45分開会

ホテルプリランテ武蔵野

進行 宇田 庶務部長

1 開会のことば 加藤 副会長

2 会長あいさつ（要旨） 堀竹 会長

明日の全連小埼玉大会に向け、全国の理事の皆様へ学校の現状について3点お話しする。

(1) 子どもの安全・安心について

児童虐待については、痛ましい事件が繰り返し報道され、学校の対応についての指摘もある。明確な対応マニュアルの整備が必要である。就学時健康診断の欠席家庭には、訪問による安否確認をする等の対応を検討する必要がある。自然災害では、夏の集中豪雨等による被害に子どもが巻き込まれる事例も増えている。登下校時間の対応と迅速な連絡方法、外部との連絡方法の確保、通常登校か否かの判断等、行政と連携した一定基準の設定等、自然災害に備え行うべきことがある。また、今年では東京で、デング熱感染が騒ぎとなり、校外学習に影響が出たところもある。学校は、エボラ出血熱も含め未知の感染症についての知識を深め、発生時の対応マニュアルについて行政と検討する必要がある。

(2) 教育改革の動向について

中央教育審議会での話題は、小中一貫教育の制度化である。小中一貫教育の制度化の動きについては、8月末から小中一貫教育特別部会で、制度設計の基本的方向性と総合的な推進方策が議論され、10月末には、答申素案が提出される方向で進んでいる。11月中旬のパブリックコメントを経て、12月末に総会で答申がなされ、来年の通常国会に法案として提出されることになる。教員養成部会では、小中一貫教育に対応した教員免許制度の在り方が審議され、小中一貫校教員には、小中両方の免許取得が望ましいという方向で議論が進んでいる。また教員養成では、養成、採用、育成を一体化して進める制度の在り方の検討が進んでおり、10月末には報告案が審議される予定である。

(3) 小学校英語の教科化について

英語教育の在り方に関する有識者会議が開かれ、小学校の英語教育の具体的な考え方が報告

された。英語教育のねらいについては、学習指導要領で、小・中・高での学びの円滑な接続、英語を使い何ができるかという観点から一貫した教育目標を示すとした。特に小学校では、中学年から外国語活動を開始し、コミュニケーションの素地を養うとともに言葉への関心を高め、高学年では身近なことについて基本的な表現によって「聞く・話すこと」等に加え、「読む・書く」の態度の育成を含めたコミュニケーション能力の基礎を養う等、一歩踏み込んだ方向性が示された。また教科となった際の授業時数や位置付けは、教育課程全体の中で専門的に議論するとしている。高学年で教科化した際の評価については、文科省の研究指定校の実践をもとに検討するとしている。教科書、ICTを含めた教材は、文科省において作成するという報告もある。英語指導の専門性を高める免許法認定講習、中学校の免許取得促進、一定の指導力のあるALTの配置等の課題がある。

国による新たな教育の方向性が次々に示される中、全連小では、全国の校長の意見を踏まえ学校からの声を届けていきたい。

3 報告 司会 石丸 副会長

(1) 会務・事業・活動の概要 宇田 庶務部長

(2) 会計 長谷川 会計部長

・基金管理状況 ・負担金納入状況

(3) 研究大会について

・埼玉大会について 高瀬 埼玉県会長

・山口大会について 山本 山口県会長

開催日：平成27年10月22日（木）・23日（金）

副主題：「志を高くもち 未来へ向かって
共にたくましく生きる子どもを
育てる学校経営の推進」

(4) 要望活動について 高橋 対策部長

・平成27年度の「小学校教育の充実に関する
文教施策並びに予算に関する要望事項」を
文科省1班、財務省1班、総務省1班の合
計4班に分かれて行った。

・要望活動に関わって9月1日付で小学校教員の業務実態調査を理事の皆様にお願

た。

(5) 東日本大震災被災地視察等について

① 被災地視察及び懇談会報告 高橋 対策部長

8月27日(水)に、堀竹会長他4名で本年度は福島県を訪問した。3カ所の学校を視察したが、「中学校との同一校舎を使う」「閉鎖した工場跡地を利用する」など、教育活動を進めるのに困難な状況を感じた。また、現在6校中2校が開校している所でも、児童数が激減している状況があった。

懇談会では、児童の心のケア、学力・体力の低下、仮設に居住する児童への対応の困難さ、加配教員やカウンセラーの配置の必要性が話題となった。

② 岩手県より報告 多田 理事

義援金を含め物心両面からの支援に対して感謝申し上げる。被災した各学校へ分配するとともに震災記録集「未来を信じて今歩き始める」の編集発刊をしたところである。また、震災メモリアル事業として震災を風化させず子どもたちに語り継ぐために「津波はいつかまた来る」という紙芝居の作成をしている。

「学舎の復興」が大きな課題であるが、現実には間借り、仮設、学校の統合などがあり厳しい状況である。本年度被災3県の中で第1号となる新築校舎ができたのがよい報告である。児童の心のケア、体力の維持、職員の加配が今なお必要な状況である。

「生きる、関わる、備える」の3点を大切にして復興教育に取り組んでいる。

(6) その他

・海外教育事情視察報告 宇田 団長

・日韓教育文化交流の報告 大橋 広報部長

4 情報交換 「土曜授業の実施について」

司会 荘司 常任理事

・国の動向について 小泉 調研部長

土曜授業は代休日を取らずに実施するものである。26年度は24年度に比べて実施が倍増している。これまでは大都市が多かったが、地方も含めて増加傾向にある。国の新規事業として24地域がモデル地域に指定された。国の予算も増加している。学校支援地域本部の実施と併せて検討されているところが多い。教育委員会制度の変更に伴って、首長の意向が大きく影響しそ

うである。次の学習指導要領では授業のコマ数についても検討されそうであるが、それと合わせた検討が必要である。

北海道 11校が指定を受けている。体験的な学習や地域興し、ふるさと体験、農業体験などが中心課題である。

宮城 管理規制の見直しを行った。年間7日間を限度として校長判断で授業を行える。モデル校や協力校として実施している。

千葉 野田市は全校実施。毎月第2・4土曜日年間17回実施を予定。補充・定着・発展をねらいとしている。長期休業中の代休確保のため、夏休みに10日間一斉休業を行う。

岐阜 26年度より全小中学校で月1回、年間10回実施。地域行事やスポーツ少年団への影響が大きい。

大阪 年6回実施。縦割り活動、学習発表や学校行事、土曜参観等を行っている。代休の振替が難しく、施設開放に影響もある。

岡山 年間3回程度が多いが、月2回を上限として実施できる。基礎基本の定着、平日の授業の確保ができてきているが、児童生徒への負担が増えてきている。

高知 9市町村20校が実施。県民世論調査では58%が賛成。学期1回13校、月1回7校。授業時数の確保、子どもたちの居場所づくりが主なねらい。地域行事、スポーツ教室、塾等への影響が大きい。

福岡 県教委の通知により実施。開かれた学校づくりの推進がねらい。月2回を上限とする。振替のできる期間が変更された。国の間接実施事業として実施され、必要な費用の3分の2を県が負担する。月2回を上限として年10回を標準としている。約7割が実施している。

5 連絡・その他

(1) 広報部より 大橋 広報部長

・教育研究シリーズ第52集の購読協力依頼

(2) 広島県より 西本 広島県会長

8月の集中豪雨による大規模災害に対する物心両面からの支援に感謝申し上げます。見舞金は広島県PTA協議会と共に対応を協議している。人的被害や物的被害に対して十分な対応をしていきたい。

6 閉会のことば 加藤 副会長